

SRD キット スズキ A2 ハーフセット

この度は弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
ご使用の前に本書を必ずお読み下さい。

本説明書の内容

A. 使用目的・概要

製品の使用目的、概要等が記してあります。取付け車輛の使用者は必ずお読み下さい。

B. 内容物

製品及び付属品、内容物全てを記してあります。取付け作業前に必ずお読み下さい。

C. 取付けについて

製品の取付けに関して記しています。取付け作業をされる方は必ずお読み下さい。

C-1:スポーツタイプステアリングホイールを直接装着する場合の取付け手順

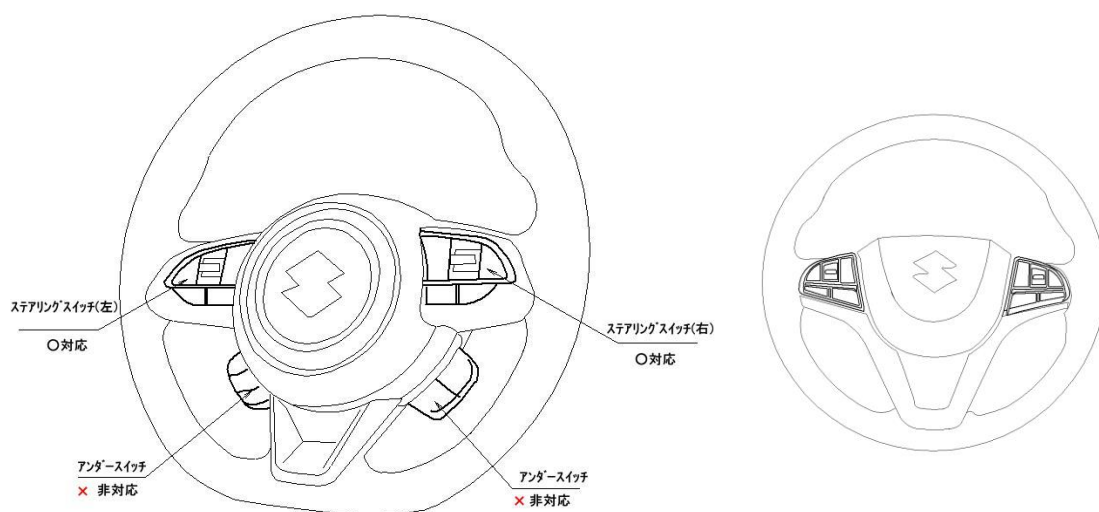
C-2:ラフィックスシリーズを併用する場合の取付け手順

D. 注意事項

製品及び取扱説明書の内容についての注意を記してあります。取付け車輛の使用者、取付けされる方は必ずお読み下さい。

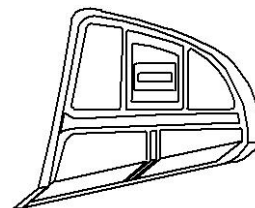
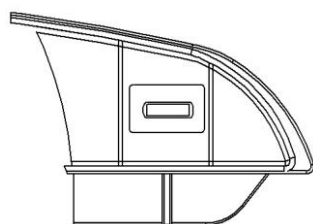
A.使用目的・概要

- ・ スズキ車の純正ステアリングスイッチをスポーツタイプステアリングホイールでも使用できるように移設する製品です。この目的以外で使用しないで下さい。
- ・ 下図ステアリングスイッチ形状以外のスイッチには対応いたしません。また、パドルシフト装着車両には装着できません。
- ・ ステアリングスイッチのみが装着されていて、アンダースイッチが装備されていない車両専用です。アンダースイッチがある車両には対応いたしません。
- ・ 弊社製ボス品番 539 または 539S が別途必要になります。本セットには含まれておりません。
- ・ 他社製ボスや部品と併せて使用しないで下さい。
- ・ 標準的な直径 350mm 以上のスポーツタイプ 3 本スポークステアリングホイールの使用を想定して設計されています。それより小さい直径のスポーツタイプステアリングホイールや 3 本スポーク以外のステアリングでは使用状況を検証しておりません。
- ・ スズキ純正のステアリングスイッチの取外し方は記載しておりません。車両メーカーもしくはディーラーにお尋ね下さい。
- ・ 本製品と標準的なオフセット(約 40mm)のスポーツタイプステアリングをご使用されると、おおよそ純正ステアリングと同じポジションとなります。



対応形状スイッチ例

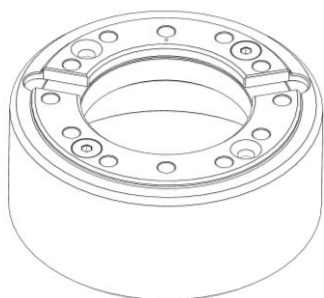
非対応形状スイッチ例



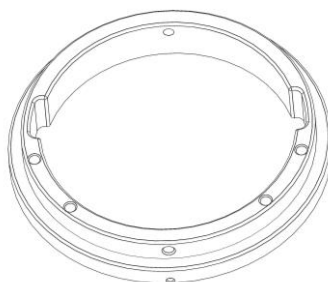
○対応形状

×非対応形状

B.内容物



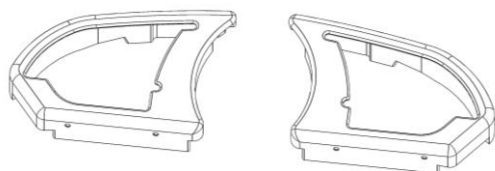
スリットカバー



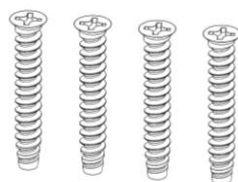
アウターリム



タッピングスクリュー 3×8—8 本



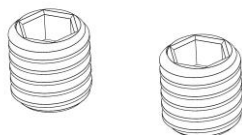
スイッチマウント(左右)



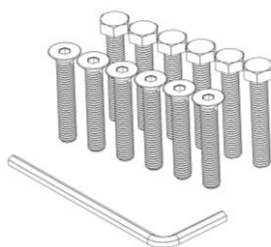
タッピングスクリュー皿 4×25—4 本



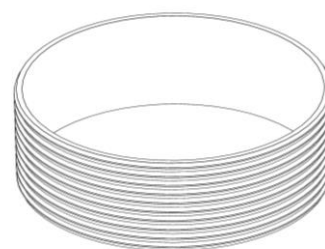
セットスクリュー M3×3—2 本



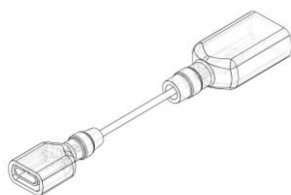
セットスクリュー M5×5—2 本



六角頭ボルト M5×30—6 本
皿頭ボルト M5×30—6 本、レンチ ※1



ローカバー

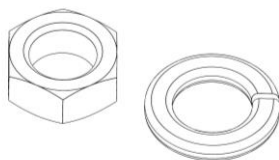


ホーン変換コード

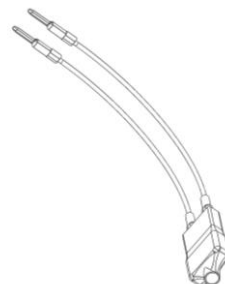
○ホス 539 の内容物で使用する部品（本製品の内容物ではありません。）



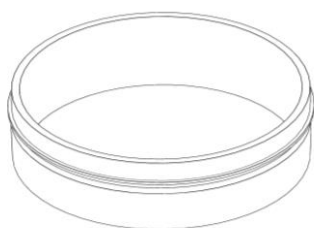
ホス本体



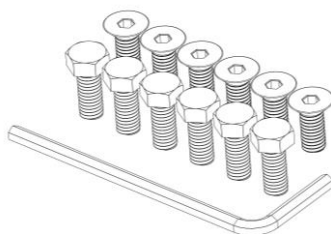
センターナット・スプリングワッシャー



エアバッグキャンセラー



ホーンリング ※1※2



皿頭ボルト M5×12-6 本
六角頭ボルト M5×12-6 本、レンチ
※3

※1: ラフィックス併用時には使用しません。

※2: NARDI タイプのステアリングでは使用しません。

※3: スポーツタイプステアリングを直接装着する際には使用しません。

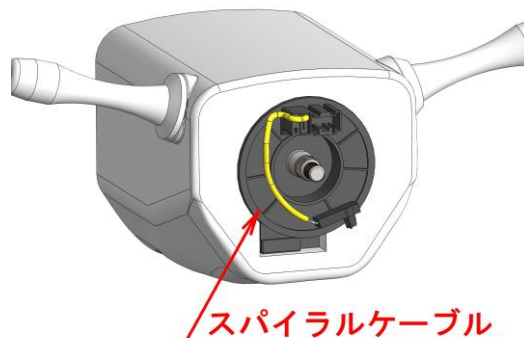
C-1. 取付けについて:スポーツタイプステアリングホイール装着時

注:ステアリングを直進状態で停車し、バッテリー端子を外してから作業して下さい。

- 1.純正ステアリングホイールを車輛から取外し図の状態にします。

注:ステアリングを外した状態でスパイラルケーブル単体を回転させないで下さい。配線を切断してしまいます。

注:純正ステアリングを外した後、ステアリングシャフトのテーパ部をパーツクリーナー等で必ず脱脂して下さい。

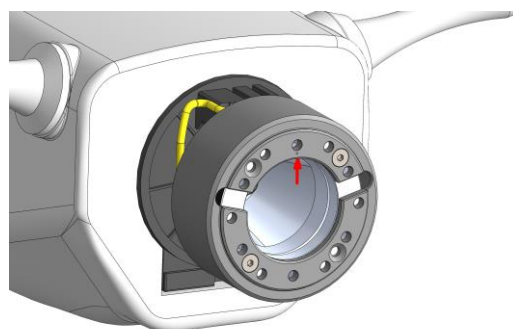


- 2.ボス本体の TOP マーク△をシャフトの TOP に合わせて差し込み、センターナットで仮固定します。

注:スプリングワッシャーは使いません。
決して強く締めないで下さい。各部品の位置を決める為の仮組みです。



- 3.ソリッドカバー(専用 10mm スペーサーがついた状態で)の TOP をボス TOP△に合わせ被せます。(図中赤矢印)
出荷状態ではソリッドカバーに専用 10mm スペーサーが MOMO 仕様でネジ留めされています。
NARDI タイプのステアリングをお使いになる場合は次図のように付属レンチでネジ留めしなおして下さい。



MOMO タイプ(出荷状態)



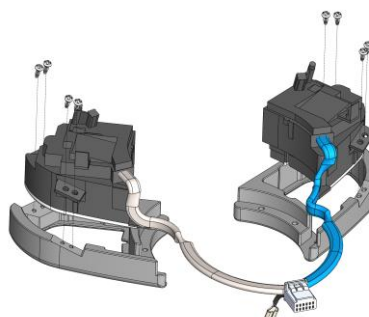
NARDI タイプ
(スペーサーの穴位置に注意)

- 4.純正ステアリングホイールからステアリングスイッチを取外して下さい。



- 5.ステアリングスイッチをスイッチマウントにタッピング
スクリュー3×8-8 本でネジ留めして下さい。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



- 6.左右のスイッチマウントをタッピングスクリュー皿
4×25-4 本でアウターリムに固定します。ハー
ネス類は邪魔にならないように外に出しておい
て下さい。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。

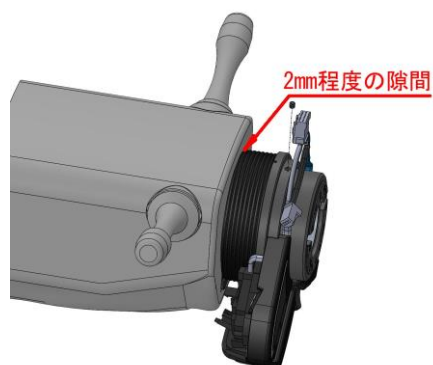


- 7.アウターリムの裏面の溝にローカーバーを差し込
み、上下のネジ穴にセットスクリューM3×3-2 本
でネジ留めします。カバーの抜け止めのネジなの
で少し締めて抜けなければ問題ありません。

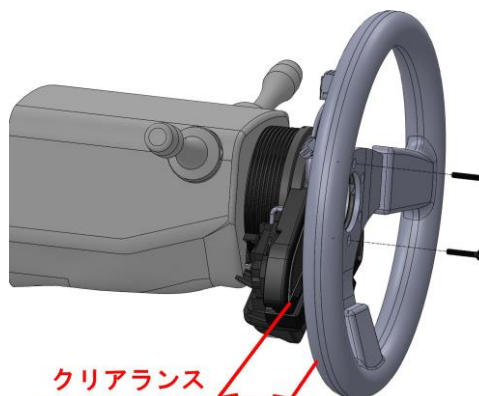
注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



- 8.ソリッドカバーに差し込み、車体のコラムカバーとロー
ーカバーの隙間が 2mm 前後になるように調整し、セ
ットスクリューM5×5-2 本を緩く締めて仮固定しま
す。差し込みにくい場合は手順 6 のタッピングスクリ
ュー 4×25 を少し緩めて下さい。



- 9.ステアリングホイールをボルト穴形状にあわせて六
角頭か皿頭どちらかの M5×30 のボルト 2 本で仮留
めし、スイッチとステアリングのクリアランスをチェ
ックします。



注: 運転に影響が無いが充分チェックして下さい。

クリアランスが狭いと思われるときはセットスクリ
ューM5×5を緩め、アウターリムとスイッチをソリッドカ
バーから抜き、ローカバーを外して短くカッターナイフ等で切断して下さい。
このとき、

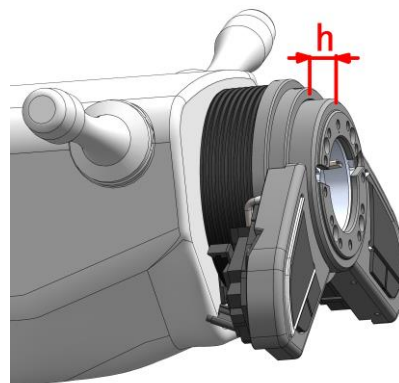
注: エンジンを始動しないで下さい。

注: カバーの切断時は怪我をしないよう充分ご注意下さい。

注: アウターリムの位置を車両側に近づけすぎると、スイッチの裏側の突起がコラムカバーやウイ
ンカー/ワイパーレバーに当たります。慎重に位置を調整して下さい。

注: やむを得ずエンジンを始動してステアリングを回転させて調べるときは手順 11 のエアバッグキ
ャンセラーの処理を先に行ってください。

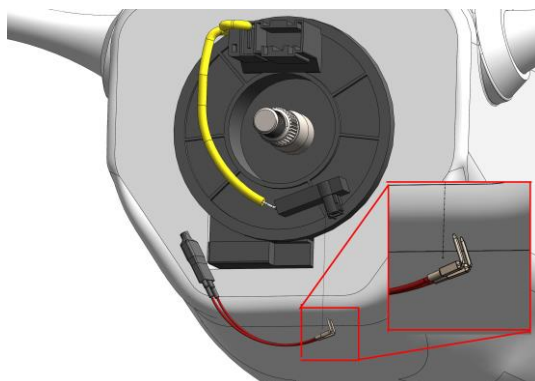
適切な位置に調整できたら、右図の寸法 h を測定して
おいて下さい。本固定のときに再現が容易になりま
す。



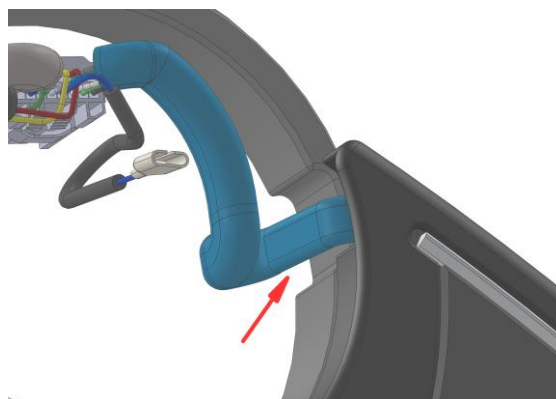
10.一度すべての部品を取外し、手順 1 の状態に戻して下さい。

11.エアバッグキャンセラーの先端を L 字に曲げ、車両のエアバッグコネクタに差し込んで絶縁テープ等で固定して下さい。2 本の配線に極性は有りません。テープで固定しないと接触不良等の原因になりエアバッグ警告灯が点灯してしまうことがあります。

注:端子を L 字に曲げるときは慎重に一度だけ曲げて下さい。端子が折れる恐れがあります。



12.手順 7 の状態から配線を中心に引き入れ、ステアリングスイッチからの左右配線をアウターリム内側の凹に収まるように形づけます。(図中矢印部分)出来るだけ保護チューブの中で配線が重ならず平らになるようにして下さい。

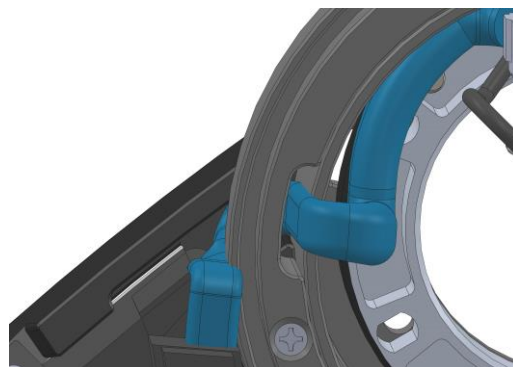


13.配線を挟んで切らないよう慎重にソリッドカバーを手順 14 の状態に差し込みます。スイッチマウントをアウターリムに留めているタッピングスクリー 皿 4 × 25 を少し緩めてから差し込んで下さい。

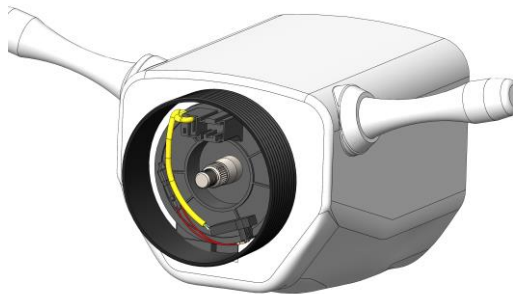


配線は裏から見ると右図のように見えます。アウターリムとソリッドカバーの隙間がかなり狭いため慎重に行ってください。(図は右側裏面ののみ。左側配線も同じ)

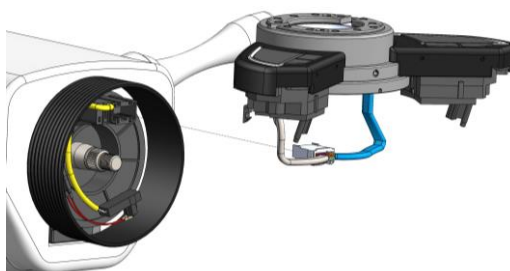
手順 9 の終盤で測定した寸法 h に調整したらセットスクリー M5 × 5 で仮留めし、上記タッピングスクリー 皿 4 × 25 を締めなおして下さい。



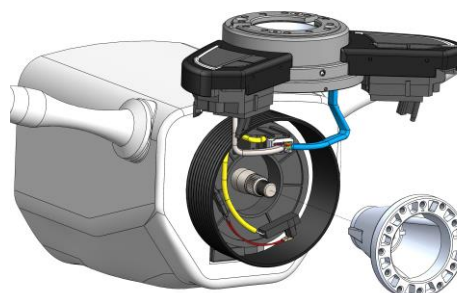
14.手順 11 の状態に、ローカバーを被せます。



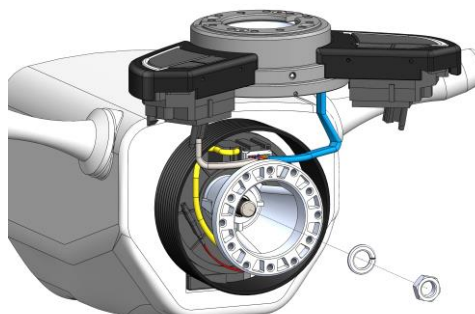
15.手順 13 で組み立てたソリッドカバー、アウターリム、スイッチ、マウント類を用意し、先にコネクタを差し込んで下さい。



16.ボスをセンターシャフトに挿入して下さい。△のTOP マークが真上です。セレーションの谷と山を噛み合わせて挿入して下さい。



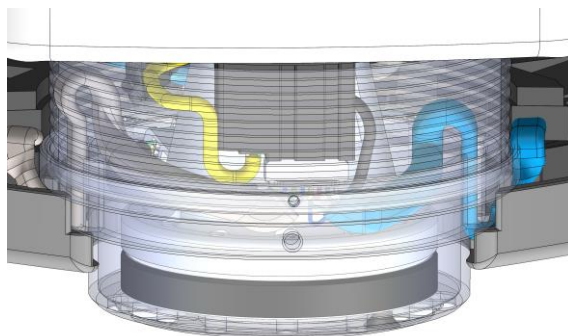
17.センターナットを締めて下さい。スプリングワッシャを入れて規定トルク 30Nm (3kg・m)を守ってゆっくりと慎重に締め付けて下さい。必要であればステアリングを仮留めして締めて下さい。必ずトルクレチを使用して下さい。



注: 十字レンチやインパクトレンチを使用すると破損する恐れがあります。

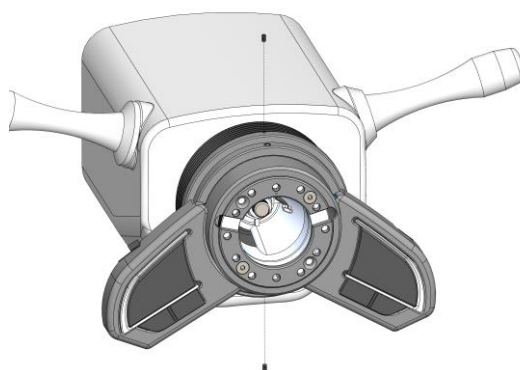
18.ホーン配線をボスの中に通してから、ソリッドカバー、アウターリム、スイッチ、ウントをボスに被せて下さい。このとき、配線類でスパイラルケーブルを車体側に押さないように慎重にレイアウトして下さい。**スパイラルケーブルを押したまま運転すると、ステアリングが重くなり、最終的にスパイラルケーブルを破損します。**

必要に応じて手順 11 のエアバッグコネクタとエアバッグキャンセラーをボスの中に収納してスペースを稼いで下さい。図はアウターリムとソリッドカバー、ローカーバーを半透明にして上から見た状況です。参考にして下さい。

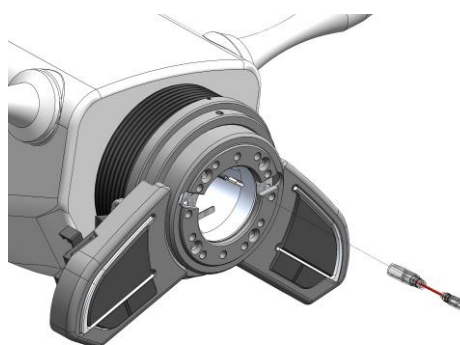


19.アウターリムとローカーバーを手順 7 と同じセット
スクリューM3×3-2 本で本固定します。

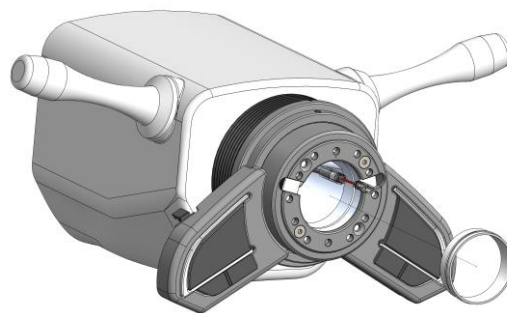
注: 樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



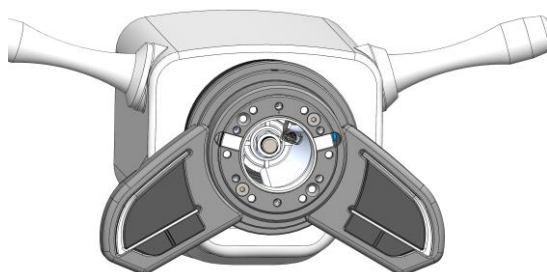
20.ホーンの変換配線を純正ホーン端子に接続
します。



21.MOMO タイプのステアリングを使用する場合は
ホーンリングをセンターボアに挿入します。
NARDI タイプのステアリングはホーンリングを
使用しません。



22.完成です。ローカーカバーと車両コラムカバ
ーの隙間が 2mm 程度開いていることを確認
し、手順 13 のセットスクリューM5×5 の 2 本
を均等に締めます。締めすぎるとソリッドカ
バーが壊れます。徐々に締めてアウターリ
ムが動かなければ OK です。



注: 締めすぎにご注意下さい。

他各部のネジが締まっているか確認し、ステ
アリングとホーンボタンを取付けて下さい。

ステアリングはボルト穴形状にあわせて六角頭か皿頭どちらかの M5×30 のボルト 6 本でネジ
留めして下さい。

ホーンボタンが 2 極のタイプは別途アース線の敷設が必要となります。

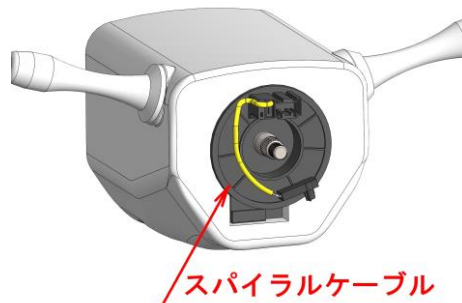
C-2. 取付けについて:ラフィックスと併用時

注:ステアリングを直進状態で停車し、バッテリー端子を外してから作業して下さい。

- 1.純正ステアリングホイールを車輛から取外し図の状態にします。

注:ステアリングを外した状態でスパイラルケーブル単体を回転させないで下さい。配線を切断してしまいます。

注:純正ステアリングを外した後、ステアリングシャフトのテーパ部をパーツクリーナー等で必ず脱脂して下さい。

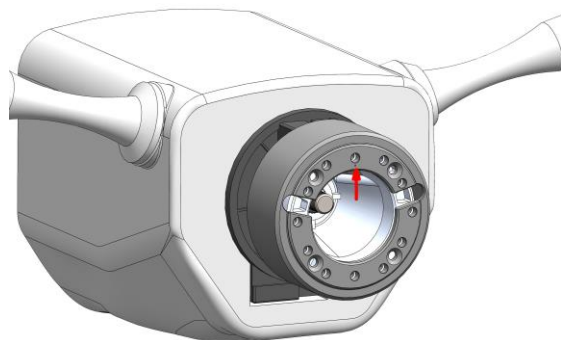


- 2.ボス本体の TOP マーク△をシャフトの TOP に合わせて差し込み、センターナットで仮固定します。

注:スプリングワッシャーは使いません。
決して強く締めないで下さい。各部品の位置を決める為の仮組みです。



- 3.ソリッドカバーから専用 10mm スペーサーを外して、ボス TOP マーク△またはショートボスは(・)にあわせて被せます。(図中赤矢印)



出荷状態ではソリッドカバーに専用 10mm スペーサーが MOMO 仕様でネジ留めされています。表面の皿頭ボルトを付属レンチで外して下さい。

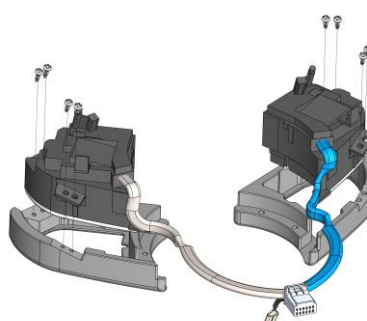


4. 純正ステアリングホイールからステアリングスイッチを取外して下さい。



5. ステアリングスイッチをスイッチマウントにタッピングスクリー3×8-8本でネジ留めして下さい。

注: 樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



6. 左右のスイッチマウントをタッピングスクリー皿4×25-4本でアウターリムに固定します。ハーネス類は邪魔にならないように外に出しておいて下さい。

注: 樹脂なので締めすぎにご注意下さい。

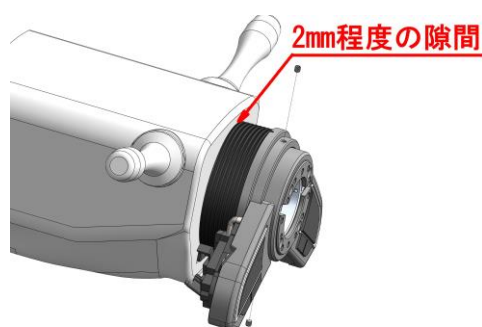


7. アウターリムの裏面の溝にローカーバーを差し込み、上下のネジ穴にセットスクリーM3×3-2本でネジ留めします。カバーの抜け止めネジなので少し締めて抜けなければ問題ありません。

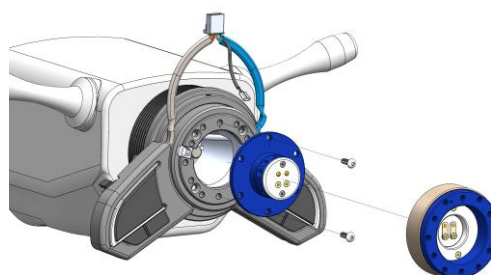
注: 樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



- 8.ソリッドカバーに差し込み、車体のコラムカバーとローワーカバーの隙間が2mm 前後になるように調整し、セットスクリューM5×5-2 本を緩く締めて仮固定します。差し込みにくい場合は手順 8 のタッピングスクリュー皿 4×25 を少し緩めて下さい。
ショートボスでカバーが干渉する場合はカッター等で切除して調整して下さい。



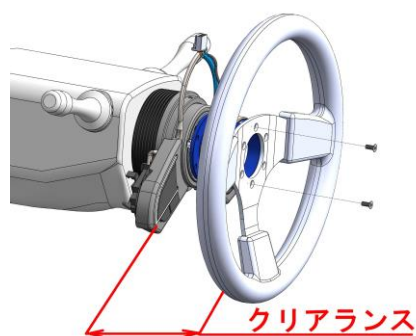
- 9.ラフィックスとステアリングを仮留めしてスイッチとのクリアランスをチェックします。ラフィックスはラフィックス付属のボルト数本で仮留めして下さい。



ステアリングはボルト穴形状にあわせて六角頭か皿頭どちらかの M5×12 のボルト 2 本で仮留めして下さい。

注: 運転に影響がないか十分にチェックして下さい。

クリアランスが狭いと思われるときはセットスクリューM5×5 を緩め、アウターリムとスイッチをソリッドカバーから抜き、ローワーカバーを取外して短くカッターナイフ等で切断して下さい。ラフィックスの高さがあるので狭すぎるということはないはずですが、別売のフリップパーを併用するときはスイッチと干渉する可能性があります。



このとき、

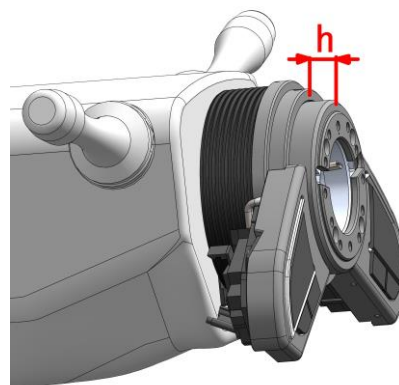
注: エンジンを始動しないで下さい。

注: カバーの切断時は怪我をしないよう充分ご注意下さい。

注: アウターリムの位置を車両側に近づけすぎると、スイッチ裏側の突起がコラムカバーやウインカー/ワイパーレバーに当たります。慎重に位置を調整して下さい。

注: やむを得ずエンジンを始動してステアリングを回転させて調べるときは手順 13 のエアバッグキャンセラーの処理を先に行ってください。

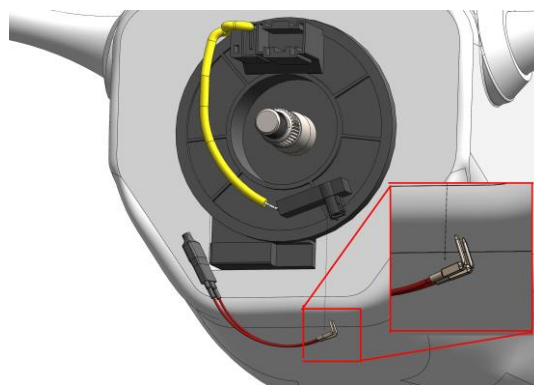
適切な位置に調整できたら、右図の寸法hを測定しておいて下さい。本固定のときに再現が容易になります。



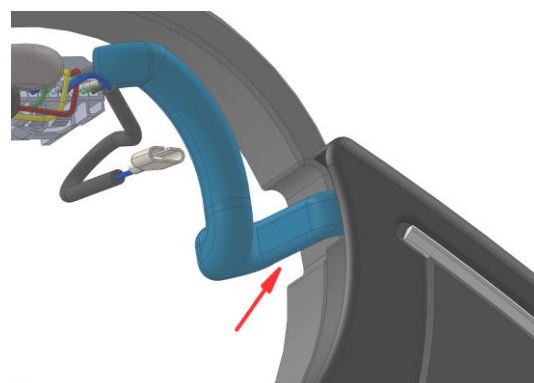
10.一度すべての部品を取外し、手順 1 の状態に戻して下さい。

11.エアバッグキャンセラーの先端をL字に曲げ、車両のエアバッグコネクタに差して絶縁テープ等で固定して下さい。2本の配線に極性は有りません。テープで固定しないと接触不良等の原因になりエアバッグ警告灯が点灯してしまうことがあります。

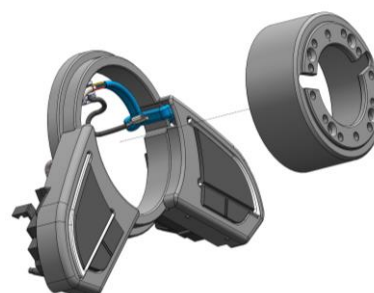
注:端子をL字に曲げるときは慎重に一度だけ曲げて下さい。端子が折れる恐れがあります。



12.手順 7 の状態から配線を中心に引き入れ、ステアリングスイッチからの左右配線をアウターリム内側の凹に収まるように形づけます。(図中矢印部分)出来るだけ保護チューブの中で配線が重ならず平らになるようにして下さい。



13.配線を挟んで切らないように慎重にソリッドカバーを手順 12 の状態に差し込みます。スイッチマウントをアウターリムに留めているタッピングスクリー 4×25 を少し緩めてから差し込んで下さい。

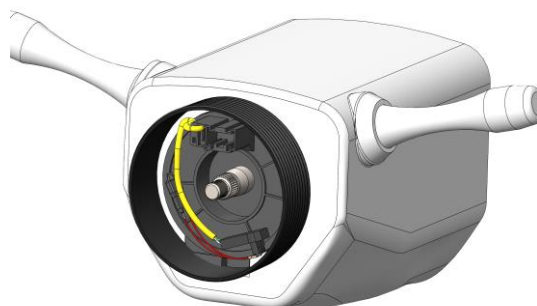


配線は裏から見ると右図のように見えます。アウターリムとソリッドカバーの隙間がかなり狭いため、慎重に行ってください。(図は右側裏面のみ。左側配線も同じ)

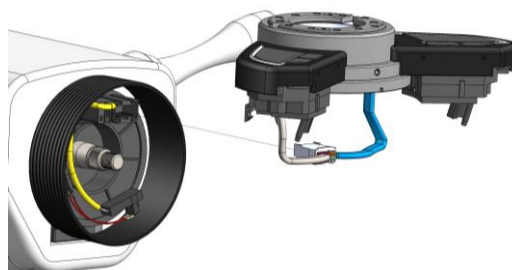
手順 9 の終盤で測定した寸法 h に調整したら、セットスクリュー $M5 \times 5$ で仮留めし、上記タッピングスクリュー 4×25 を締めなおして下さい。



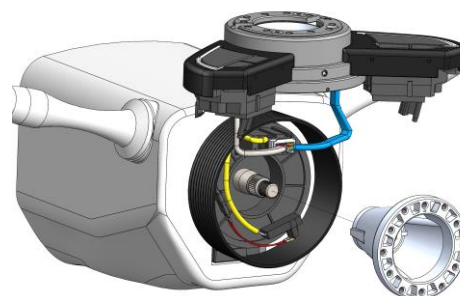
14. 手順 11 の状態に、ローカーバーを被せます。



15. 手順 13 で組み立てたソリッドカバー、アウターリム、スイッチ、マウント類を用意し、先にコネクタを差し込んで下さい。

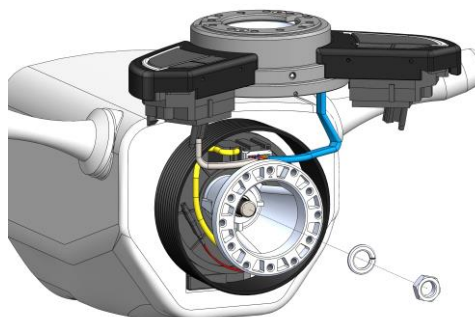


16. ボスをセンターシャフトに挿入して下さい。△の TOP マークが真上です。セレーションの谷と山を噛み合わせて挿入して下さい。

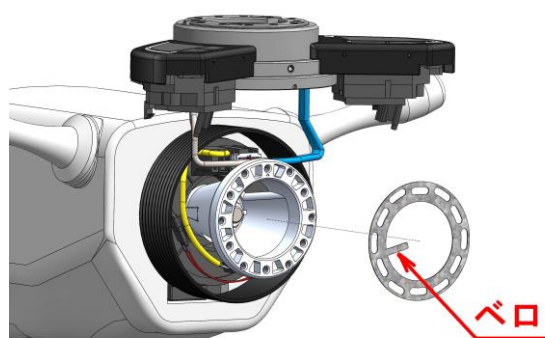


17. センターナットを締めて下さい。スプリングワッシャを入れて規定トルク 30Nm (3kg・m)を守ってゆっくりと慎重に締め付けて下さい。必要であればステアリングを仮留めして締めて下さい。必ずトルクレンチを使用して下さい。

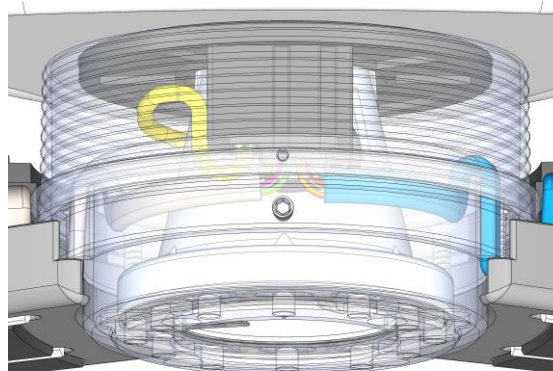
注: 十字レンチやインパクトレンチを使用すると破損する恐れがあります。



18. ラフィックス付属のアースリングをボスの上に乗せ、穴を合わせます。内側のベロの位置はどこでも構いません。

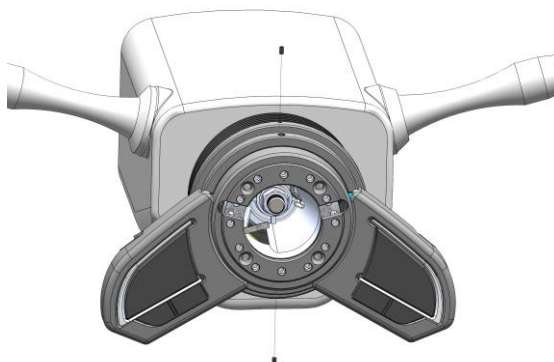


19. ホーン配線をボスの中に通してから、ソリッドカバー、アウターリム、スイッチ、マウントをボスに被せて下さい。このとき、配線類でスパイラルケーブルを車体側に押さないように慎重にレイアウトして下さい。スパイラルケーブルを押したまま運転すると、ステアリングが重くなり、最終的にスパイラルケーブルを破損します。必要に応じて手順 11 のエアバッグコネクタとエアバッグキャンセラーをボスの中に収納してスペースを稼いで下さい。図はソリッドカバー、アウターリムとローワーカバーを半透明にして上から見た状況です。参考にして下さい。

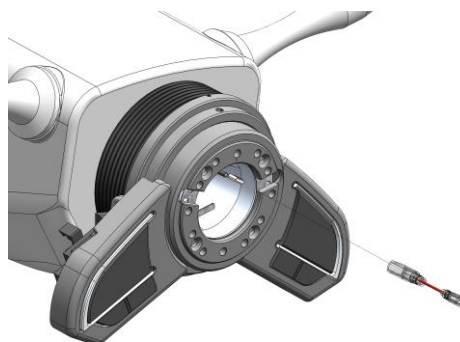


20.アウターリムとローカーカバーを手順 7 と同じ
セットスクリューM3×3-2 本で本固定しま
す。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



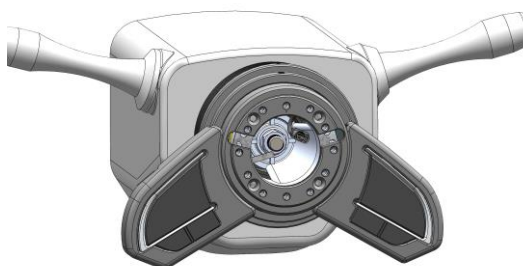
24.ホーンの変換配線を純正ホーン端子に接続しま
す。



25.完成です。ローカーカバーと車両コラムカバー
の隙間が2mm 程度開いていることを確認し、
手順 15 のセットスクリューM5×5-2 本を締
めます。締めすぎるとソリットカバーが壊れま
す。徐々に締めてアウターリムが動かなくな
れば OK です。

注:締めすぎにご注意下さい。

他各部のネジが締まっているか確認し、ラフィッ
クスとステアリング、ホーンボタンを取付けて下さい。ラフィックスにステアリングを取付ける際
には、ラフィックスの取扱説明書を参照し、ステアリングのボルト穴形状にあわせて六角頭か皿頭
どちらかの M5×12 ボルト 6 本でネジ留めして下さい。



D.注意事項

- ・ 取付け完了後、ステアリング操作をして異常が無いか確認して下さい。正しい配線の取回し等がなされず、車両側のスパイラルケーブルを配線類で押していると、ステアリング操作が重くなる場合があります。また、**その状態で運転を続けると車両部品が破損する恐れがあります。ご注意ください。**
- ・ アウターリムの調整位置によってはステアリングが直進状態でないときにパッシングするとアンダースイッチとウinkerレバーが干渉する場合があります。ご了承下さい。
- ・ ステアリングを直接装着する場合で、本製品に更にボススペーサーを追加してポジションを運転者側にしたい方は 10mm または 15mm のスペーサーまでであれば対応可能です。その際、10mm スペーサーはスペーサー本体とは別売の「25mm スペーサー用ネジセット」、15mm スペーサーはスペーサー本体とは別売の「30mm スペーサー用ネジセット」をお求め頂くか、ご自分でボルト類をご用意して頂く必要があります。
- ・ ラフィックスと併用する場合、スペーサーはラフィックスとステアリングの間に装着して下さい。10mm～30mm で 5mm 刻みに 5 種類の設定があり、どの種類でも購入したままでもご利用頂けます。
- ・ 車両の運行前には必ず各部品が確実に固定されていることを確認して下さい。**運転中にスイッチマウントが脱落したり動いたりするとステアリング操作ができなくなり大変危険です。**
- ・ 本製品を改造してご使用にならないで下さい。
- ・ 取外した**純正ステアリングや部品は大切に保存しておいて下さい。**なんらかの理由により、純正状態に戻す際に必要になります。弊社ではその責任を負えません。
- ・ 弊社製品は慎重に検査し不具合がないことを確認してから出荷しておりますが、万が一品質に問題がある場合は弊社までお問い合わせ下さい。このとき製品を一度弊社までお送り頂く場合が有り得ます。上記純正部品が必要になりますし、ご自分で作業されない方は工賃が発生することが想定できますが、弊社ではこの**純正部品、工賃等は一切保証致しかねます**ので何卒ご了承下さい。
- ・ 付属エアバッグキャンセラーを正しく装着しても車両の個体差により、一部の車両でエアバッグ警告灯を消灯できないことがあります。対策品のご用意はありますが、確実に全ての車両に有効ではありません。

製造元:株式会社ワークスベル

〒391-0011 長野県茅野市玉川 8507

問合せ先:ワークスベル・カスタマーセンター

TEL:0266-70-1477

E mail: support@worksbell.co.jp